

第32回 独立行政法人国立印刷局契約監視委員会（審議概要）

開催日及び場所	令和2年12月14日（月） 国立印刷局本局大会議室
出席委員	委員長 栗田 誠（白鷗大学法学部教授） 委員 村瀬 均（中央大学大学院法務研究科教授） 委員 坂本 剛（独立行政法人国立印刷局監事） 委員 古東 誠（独立行政法人国立印刷局監事） （注）黒川委員は欠席
審議対象	1 令和2年度上半期契約の点検 令和2年度上半期に契約締結した案件のうち、新規の競争性のない随意契約（4件）及び2か年度連続して応札者又は応募者が1者しかない契約（30件）（全34件） 2 更なる合理的な契約方法へ移行する案件について 令和2年度調達等合理化計画に基づく随意契約への移行について

議事等	内容
1 令和2年度上半期契約の点検	効率的に審議を行うため、以下の方法で行った。 （1）全34件の中から、個別に審議する契約案件を栗田委員長が7件選定 （2）選定された案件を1件ごとに審議（類似案件は一括して審議） （3）選定されなかった案件については、本委員会の個別点検項目に沿って点検を実施した内容について審議 ※個別に審議した7件は別紙1のとおり。 ・委員からの意見・質問、それに対する回答は別紙2のとおり。
2 更なる合理的な契約方法へ移行する案件について	令和2年度調達等合理化計画に基づく随意契約への移行について、以下の審議を行った。 「プラスチックワイヤー」 ・委員からの意見・質問は特になかった。
委員会による意見の具申又は勧告の内容等	いずれの案件も了承され、意見の具申又は勧告はなかった。

個別に審議した契約案件（7件）	
【新規の競争性のない随意契約案件】	
	「高性能貼付機」
	「磁性材料」
	「インキ用特殊材料A」
	「インキ用特殊材料B」
【2か年度連続一者応札・応募案件】	
	「診療所医薬品 217 件」
	「さらしクラフトパルプ（広葉樹）」
	「当紙用紙」

意見・質問	回 答
【新規の競争性のない随意契約案件】	
<p>「磁性材料」</p> <p>○ 他の案件と異なり、予定価格と契約金額が同じになったのはどうしてか。</p>	<p>○ 随意契約については、相手方と価格交渉を行い契約金額を引き下げる努力を行っているが、本件については本案件以前に試験用として購入した価格から値引きした予定価格を作成しており、これ以上の値引きが困難だったものである。</p>
<p>「インキ用特殊材料A・B」</p> <p>○ 契約件名について非公表としているが、公表した場合、具体的な製品が特定されるということなのか。</p>	<p>○ ご指摘の通り、具体的な材料が推測される懸念があるためである。</p>
【2か年度連続一者応札・応募案件】	
<p>「診療所医薬品 217 件」</p> <p>○ 1, 000万円弱の契約で必要の都度、納品を求めているのは、入札参加者にとって負担となっているのではないか。</p> <p>○ 一括調達よりも、地域ごとに調達を行う方が、入札参加者が増えるのではないか。</p>	<p>○ ご指摘の仕様書の条件については、入札参加者にとって過度な負担とならないよう事業者の意見を更に聞き取り、検討していきたい。</p> <p>○ 現状では在庫管理上の関係から一括調達を行っているが、地域での状況の確認を進め、検討していきたい。</p>
<p>「さらしクラフトパルプ及び当紙用紙」</p> <p>○ 輸入にあたり、現状では品質に問題があれば輸入後すべてを返還できるという売り手には厳しいと思われる条件があるようだが、柔軟な対応を検討した方が入札に参加しやすくなるのではないか。</p> <p>○ 急激な価格変動や為替変動などを考慮し、3か月ごとに調達している原材料などはあるのか。</p>	<p>○ 入荷単位でサンプル検査することになっているが、例えば事前に受け入れ水準の可否について、確認するような対応をとることも可能と考えている。</p> <p>○ 現在、調達を行っている原材料のうち、おおむね四半期に1度調達しているものがある。</p>